

第14回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜ ターゲット型 登録里親、里親候補者、里親支援者の皆さまと ＞
～里親等委託の推進に向けて～

対話録概要

と き	令和7年6月26日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
と ころ	中央北生涯学習プラザ 1階学習室 A・B・C
出 席 者	参加者 13人、市長ほか関係者 14人 計27人
トークテーマ	① 里親等を増やすために必要なことは何か ② 里親等養育に向けた支援のあり方

【市長のあいさつ】

私は、この11月で市長になって3年になり、就任以降、いろいろな分野で活動している人々と意見交換するため、この「車座集会」を実施してきた。今回は就任以降の通算で第14回目の車座集会であり、今年度は初めての実施である。

令和8年度から児童相談所の設置に伴い、里親等委託の事務の所掌が尼崎市となることから、本日は里親等委託について勉強できればと思う。私自身、一人の人間として、里親に会う機会は人生の中で本当に限られており、子育てをする中で心配事や課題もあると思うため、尼崎市としてもサポートができればと考えている。

【意見交換】

テーマ① 里親等を増やすために必要なことは何か

＜里親候補者＞里親を目指したきっかけは、一昨年の市報10月号の里親制度の特集であり、現在、里親研修を受講している。登録前の段階であるが、不安な点が出てきたため相談したい。

子どもの年齢は問わず、養子縁組里親になることを検討している。共働きであったとしても、里親になることは可能であるが、自身の勤め先における育児休業制度は、子が乳児の場合は育児休業制度の対象となるものの、幼児の場合は同制度の対象とならず休職扱いとなり、まだまだ里親が子を養育しやすい社会とは言い難い。

また、保育所入所にかかわらず、受託後子どもが家に慣れるまでの期間についても休職の選択肢しかないため、里親になるための支援制度が充分ではないと感じる。

＜市長＞実子の場合は育児休業の取得のしやすさを含めいろいろな支援制度があるが、里親の場合は会社の理解を得られるのかどうか等事情は異なってくるため、非常に重要な視点である。

保育所入所調整に関しては、今年度より、里親は保育施設等利用調整基準表における調整指数において、加算対象となっている。育児休業制度等については、実態を把握し、国等へ要望することも有効かと考える。

＜登録里親＞令和8年度から尼崎市に児童相談所及び里親支援センターが設置されることに期待している。

里親は働きながら、実親との面会対応や児童相談所の職員との面談の日程調整をしており、そういった里親の状況や苦労を児童相談所の職員に理解してもらいたい。信頼関係が築ければコミュニケーションが円滑になるが、担当職員の異動が多いため、関係構築が難しい。

また、私たち里親が、子どもの成長を見守る中で、表情豊かになっていく様子を見て喜びを感じ、より多くの子どもが里親家庭で安心して過ごせることを願っているように、児童相談所の職員にも長期的に関わってもらい、子どもたちの変化を見守ってほしい。

〈登録里親〉ショートステイ制度は地域の子どもにとっても重要であるが、共働きの里親が多く、受け入れが難しい現状もあるため、支援体制を強化し、里親の負担を軽減する必要がある。週末里親の中には、ショートステイであれば協力可能な人もいるため、協力者を増やしていきたい。

支援体制を充実させるためには、里親会、里親支援センター、児童相談所の連携が重要である。

〈市長〉里親支援の一層の充実に向けては、児童相談所の機能だけでなく、職員一人ひとりのコミュニケーション能力が重要であり、里親と落ち着いて関わることのできる職員の育成や異動の配慮が必要であると感じた。

〈登録里親〉養育里親と養子縁組里親に対する金銭的支援の違いに疑問がある。生活費等は養育里親、養子縁組里親ともに支給されるが、里親手当については、養育里親にはあるが、養子縁組里親にはない。一方で、養子縁組里親を希望する夫婦としては、戸籍上実子と同じ扱いになることを重視しているため、不満はないという声も聞く。

〈登録里親〉養育里親と養子縁組里親は、養育の悩みが多い点で苦労が共通しており、里親会への参加やサロンでの交流が養育にとって重要である。特別養子縁組を機に里親会を辞める人もいるが、里親を続ける上で、つながりは大切で、自分には助けになっていると感じている。

〈登録里親〉里親と児童相談所の職員間において、顔の見える関係を築くため、里親支援センターで、定期的に里親と児童相談所の職員を集めて会を開催するのはどうか。信頼関係を築くためには顔を知ることが重要であり、新しく登録した里親も参加し、里親同士の横のつながりも広げていってほしい。

〈市長〉里親の登録数は増えているが、委託率が伸びないのは、里親の横のつながりが不足していることから来る不安があると考えられるため、里親同士においても、顔の見える関係作りを意識し、子どもと共に集まり、相談や交流ができる居場所の提供ができるような支援を考えていきたい。

テーマ② 里親等養育に向けた支援のあり方

〈登録里親〉DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用を提案したい。里親会、里親支援センター、児童相談所間での情報交換が重要である。また、児童相談所から情報がなく不安になることが多いため、プッシュ型通知のような個別の情報提供を望む。その他にも、デジタルプラットフォームで里親同士が交流できる場を設け、困った際などに情報や意見を交換できるようにしてほしい。子どもを迎える際の心構えや具体的な対応について質問できる場を設けるとともに、これまでの事例や経験者のノウハウを集めて提供するなどしてほしい。DXを活用することで、例えば里親と児童相談所の職員間のスケジュール調整がスムーズになるなど里親と職員双方の負担軽減にもつながると考えている。

〈市長〉現在、児童相談所設置に向けた準備の中で、DXについても進めている。情報共有の手段の有効なツールとして、積極的に考えていきたい。

〈登録里親〉毎月の市報に里親コーナーを設け、里親登録数やショートステイ受入数、ショートステイを利用した保護者の声を掲載してはどうか。関心を持っている人は多いが、里親制度に難しいイメージがあるため、SNSを活用する等して、明るく楽しい雰囲気でも広報してほしい。また、中小企業に対しても市から広報してほしい。中小企業の人事担当者が里親制度を知らず、毎年の扶養家族届出時の度に説明する現状にある。

〈市長〉企業が里親制度に関する理解を深め、里親への支援が広がるよう行政としてサポートしていきたい。

〈登録里親〉実親から同意がなかなか取れずに、子どもを里親のもとに迎え入れることができない事例がある。児童相談所が一時保護をする際、施設入所・里親委託を含め、子どもにとって一番良い養育を考えていることを実親へ説明してもらいたい。

〈登録里親〉里親登録の研修は約1年を要するため、里親になることへのハードルが高い。登録のハードルを下げるためにも、研修については登録後に回数を重ねる方が、里親自身が子どもたちの状況への理解が深まり、意識を変えることができるのではないかと考える。

〈里親支援者〉週末及び季節里親は法的な里親ではないため、独自の研修を実施できるが、兵庫県では週末及び季節里親も登録里親とする方針が取られている。市の事業であるショートステイ里親についても、登録里親に委託している。コーディネーターの立場からは、短期間の預かりであるショートステイに関して、委託先を広げたいという観点で考えると研修の負担を減らしたいという考えもあるが、週末及び季節里親・ショートステイであっても子どもを預かる責任は同じくあるため、研修を積んだ里親に預けることが良いのではとも考える。

〈里親支援者〉地域支援をしている立場として、里親は有難い存在である。安心がゆえに、里親のみなさんに負担を強いている部分もあると感じている。里親の負担を軽減する方法を考えていかなければ、ショートステイの受入も含め、里親を辞める人も出てくるのではと考える。

里親のところに行き、表情が明るくなった子どもたちを見てきているため、里親の力は大きいと感じている。

〈里親候補者〉子どもが安心して生活できる環境を整えることが非常に大事だと思うが、環境を整えるために子ども専用の1室を用意することに対して非常にハードルが高く感じる。登録里親がどのようにしているのか、支援等はあるのか知りたい。

〈登録里親〉子ども専用の1室確保が必要というよりは、その子が一人になれるスペースを作ることが必要と考えている。

〈里親支援者〉子どもを迎えるにあたって引っ越しをした里親もいた。安心できる場所として自分の部屋が必要な場合は確かにある。

〈里親候補者〉里親登録前の研修で安全な部屋の整え方等も学ぶ。先ほど研修が負担であるという話が挙がったが、研修を受講することで子どもを迎える覚悟ができることもある。

〈登録里親〉今後、里親の委託率の向上を目標に掲げるのであれば、預かる子どもの事情がより複雑化することも想定され、里親の心が疲弊することも考えられるため、20年前に比べると格段に支援内容は充実してきているものの、引き続き里親を支える制度作りをお願いしたい。

【おわりに】

〈市長〉市役所の仕事は、予算や人事配置において、ルールがあることが多いが、里親支援に関しては、情報のやり取りや信頼関係作り、里親の負担感を減らす支援策などが重要であると認識できた。

これらの部分は我々にとって努力のしがいがある分野であり、一定の時間はかかるかもしれないが、児童相談所設置準備担当の職員とよく話し合っ、しっかりと準備していきたい。良いきっかけになったと感じている。

以 上